

勝とは己の中の「争いに」に うちかつことである。

合氣道の極意は、己の邪気をはらい、己を宇宙の動きと調和させ、己を宇宙のそのものと一致させることにある、合氣道の極意を会得した者は、宇宙がその腹中にあり「我は即ち宇宙」なのである。

そこには速いとか、遅いとかいう、時間の長さが全然存在しないのである。

この時間を超越した速さを正勝（まさかつ）吾勝（あがつ）勝速日（かつはやび）という、正勝、吾勝、勝速日とは、宇宙の永遠の生命と同化することである。

では如何にしたら、己の邪気をはらい、心を清くして、宇宙森羅万象の活動と調和することが出来るであろうか。

それには、まず宇宙の心を、己の心とすることだ、宇宙の心とは何か？これは上下四方、古往今来、宇宙のすみずみまでにあよぶ偉大なる「愛」である。

「愛」は争わない、「愛」には敵がない、何ものかを敵とし、何ものかと争う心はすでに宇宙の心ではないのである。

宇宙の心と、一致しない人間は、宇宙の動きと調和できない、宇宙の動きと調和できない、人間の武は、破壊の武であって真の武ではない、だから武技を争って勝ったり、負けたりするのは真の武でない。

真の武は、正勝、吾勝、勝速日であるから、如何なる場合もにも絶対不敗である。

すなわち絶対不敗とは、絶対に何ものとも争わぬことである。

勝とは、己の心の中の「争う心」にうちかつことである、己に与えられた使命をなすとげることである。

真空に中心が生ずるとき氣を生み出す

円の動きのめぐり合わせが、合氣の技であります、技の動きが五体に感応して、おさまるのが円のたましいであります。

円は皆空と自由自在のことです。

皆空に中心が生ずるとき氣を生み出します。

皆空の中心より無量無限の宇宙に氣産び、生産びするのが魂であります、魂は一切を生み出すものであり、不滅の生み親であります。

円を五体の魂におさめると、技を生み出す仕組の要素を生じます、生は無限であります。

すべてを豊かに満ちたる仕組みになすのが円の現れであります、円は宇宙にある一切の万物生物を、氣産び生産びの形にて、生成化育し、守護の仕組みを生じさせます。

世の中の因縁も円い動きのめぐり合わせであります、合氣の武も円いのであります。

きた合氣をもって者と心を合わせ、生き榮えていく仕組をもつのが魂の円におさまります、おささるが故に技無限に包蔵され、生み出すこともできます、これが魂の円であります。

この魂の円がなければ榮え、また精進、魂魄和合のはこびはできません、これがなければすべての五体への還元はなくなるのであります。

円の魂の皆空は宇宙一体に帰します。

これは合氣の武の根元であります、魂の円を体得した極意には、相對の因縁動作を円に包擁し、掌に握る如く、すべてを吸収します、己に魂があれば、人にも魂があり、ひれを氣産び、円はすべてを総合します、如何なるものも自由にとけるのが円であります。

円の極意は皆空の中心をつき、技を生み出すことにあります。

合氣道開祖 植芝盛平翁 昭和34年5月